

休居士利○千鷗○武野に談じ、艸茨の貳疊敷を作らる。是露地草菴の最初なり。敷奇はもの、相そなはらざる形にて不偶なるを云。○中略

園

昔廣座敷の隅を屏風にてかこみて、五六疊敷程にして茶をたてし事有。草菴未だ流行せざる比の事と云々、一説に爐をかこみ居るを以て園と云。圓座杯言類にて、園居同じと云々、此説も左可有也。今時も別に草菴などえつらひ侘人は可有事なり。

〔茶譜十四〕一利休流ニ敷奇屋ト云事無之。小座敷ト云。此小座敷ハ棟ヲ別ニ上テ、路地ヨリクヰリヲ付テ客ノ出入スルヲ云ナリ。又園ト云ハ、書院ヨリ襖障子ナド立テ茶ヲ立ル座敷ヲ園イト云ナリ。之ハ床ヲ入テモクヰリヲ付テモ、中柱ヲ立テモ、或ハ突上窓、或ハ勝手口、通口有之トモ、廣座敷ノ内ニ間仕切テ、茶ヲ立ルヤウニ造ルユヘ園ナリ。

右當代ハ敷奇屋トナラデハ不云。又書院ノ脇ニ襖障子ヲ立テ、或ハ三疊、或ハ四疊半、或ハ六疊敷ニシテ小座敷ノゴトクナレバ、之モ敷奇屋ト云。又小座敷別ニ棟ヲ上テ、書院ト離タモ園ト云。何レモ誤ナリ。

〔南方錄二〕珠光眞座敷

紹鷗四疊半 木格子 竹格子
張付 土壁 爐

珠光四疊半、是四疊半の根本也。眞の座敷と云。鳥の子紙白張付杉板の節無。天井小板ぶき、寶形造一間床也。秘藏の圓悟禪師の墨跡を掛、臺子をかざり、其後爐を切て、弓臺を置合せられしとかや、又床には二幅對の掛畫勿論、一幅の畫などもかけられしなり。前には卓に香爐花入、或は小花瓶二色に立花、或は料紙硯箱短尺箱、文臺、盆山、葉茶壺杯も飾られし也。大方書院の飾物等置れければ、共物敷杯は略有しとかや。紹鷗に成て、四疊半座敷所々改張付を土壁にし、木格子を竹にし、障子